

京都ノートルダム女子大学
日本年中行事編 特別授業
令和4(2022)年11月17日

綿から綿へ

— ひと粒の種が布になるまで —



綿作農家の一ねん

H.A.M.A. 木綿庵(中うねん)
代表 陶田正之



0、自己紹介

- 1、国内における綿花栽培の歴史
- 2、綿花の栽培作業
- 3、綿花の加工作業
- 4、栽培と加工
- 5、H.A.M.A.木綿庵について
- 6、質疑応答&アンケート記入

2022/11/17

0、自己紹介

- 奈良県天理市で、綿と季節の野菜を栽培
- 高等学校の教員の傍ら、2008年(平成20)に新規就農
- **兼業農家** 自分の所有地(2,100㎡=636坪)と、
• 借地(1,000坪以上)を管理、耕作
- このうち、綿花栽培は、約300坪

2022/11/17

10:50

1、綿花栽培の歴史

2022/11/17

1-0、国内における綿花栽培の歴史

国内で綿作が始まったのはいつか？

2022/11/17

1-1、国内における綿花栽培の歴史

- 日本における綿作、綿業の開始期
15世紀末～16世紀中頃と考えられる

応仁の乱(1467～1477)～戦国時代

→ 兵衣、幔幕(まんまく)、火縄銃など
木綿の需要が急激に高まる

- 当初は輸入品。朝鮮半島からの輸入が行き詰まる

2022/11/17

1-2、国内における綿花栽培の歴史

戦国時代(おもに西暦1500年代)まで、
日本人は木綿製品を身につけたことがなかった

それまで、何を着ていたの？

2022/11/17

1-3、国内における綿花栽培の歴史

木綿・コットン・綿 の魅力

これまでに経験したことのない
保温性、吸湿性、着心地の良さ、
加工のしやすさ、シルエットの美しさ、など



綿の栽培は、またたくまに全国に広がる

2022/11/17

1-4、国内における綿花栽培の歴史

綿(わた) = 繊維の塊

真・綿(まわた) ↔ 木・綿(きわた)



繭、生糸、絹、シルク



もめん、綿、コットン

2022/11/17

1-5、国内における綿花栽培の歴史

- 栽培の起源については文献によって
- 多少異なる見解がみられる。

- 参考図書

- 永原慶二『新・木綿以前のこと』

• (中公新書、1990年)、

- 柳田國男『木綿以前の事』(創元社、1938年)。

2022/11/17

1-6、国内における綿花栽培の歴史

畿内(大和、山城、摂津、河内、和泉)は、
綿花栽培の先進地域でもあった



明治時代に入り、外国産の良質、安価な綿花、
綿糸、綿布におされ、国内の綿花栽培は壊滅
(明治29年1896、関税撤廃)

2022/11/17

1-7、国内における綿花栽培の歴史

江戸時代から明治のはじめまで
農家では綿を栽培し、糸に紡ぎ、現金収入を得る



同時に、その綿花を自家用とし、家族の衣料に利用
糸紡ぎ、機織りは、農村婦女子にとっては
欠くことのできない**生活技術**

2022/11/17

11:00

2, 綿花の栽培作業

2022/11/17

2-1、綿の栽培作業

綿の品種

和綿(アジア綿系)

洋綿(アメリカ綿系)



2022/11/17

2-2、綿の栽培作業

播種(たねまき)

大和では、
八十八夜
(5月2日頃)

* 綿は好光性



2-3、綿の栽培作業

発芽

1~2週間



2022/11/17

2-4、綿の栽培作業

生長

約1ヶ月



2-5A、綿の栽培作業

生長

約2ヶ月

土寄せ、追肥
支柱立て。
水の管理



2-5B、綿の栽培作業

防虫対策
ハマキムシ
アブラムシ
オーガニックの
ハードルは高い



2-6、綿の栽培作業

開花
約2ヶ月半
初日は白、
翌日は赤に



2013/8/5 4:58

【綿の花】



2022/11/17

【畑の様子】



2022/11/17

2-7、綿の栽培作業

結実(蒴果)
約3ヶ月半
左:和綿
右:洋綿



2022/11/17

2-8、綿の栽培作業

開絮(かいじょ)
約4ヶ月
綿が吹く
七十二候
「綿樹開」
わたのはなしべひらく
8月23〜27日頃



2022/11/17

2-9、綿の栽培作業

収穫(綿摘み)
約4ヶ月～

最盛期は9月

よく晴れた日の
午後が最適

手を保護しつつ



2022/11/17

2-10、綿の栽培作業

綿木引き
(片付け)
約7ヶ月半

枯れ枝は
焚き付け材として
重宝された



2022/11/17

11:10

3、綿花の加工作業

2022/11/17

3-1、綿花の加工

天日干し
(乾燥させる)



2022/11/17

3-2A、綿花の加工

綿繰り
(わたくり)

種と繊維を分ける作業

隠居、子供の仕事



2022/11/17

3-2B、綿花の加工

綿繰り
(わたくり)

動画データ
1. 綿繰り

2022/11/17

3-2C、綿花の加工

繰り綿
(くりわた)

綿繰りを終えた綿



2014/8/17 11:30

2022/11/17

3-3A、綿花の加工

綿打ち
(わたうち)

繰り綿のゴミを落とし、
繊維をほぐす作業

高度な技術が必要
おもに職人が請け
負った

唐弓(右)と竹弓(左)



16:51 8/18/2015

2022/11/17

3-3B、綿花の加工

綿打ち
(わたうち)

竹弓
(たけゆみ)

動画データ
2, 綿打ち

2022/11/17

3-3C、綿花の加工

打ち綿
(うちわた)

綿打ちを終えた綿



2014/8/17 11:30

2022/11/17

3-3D、綿花の加工

じんき作り
の準備

手刀で綿を裂く

じんき作り
の準備

動画データ
3, 打ち綿を
広げる

2022/11/17

3-3E、綿花の加工

じんき作り

打ち綿を
棒で巻く

じんき作り

動画データ
4, じんき作り

2022/11/17

3-4A、綿花の加工

糸紡ぎ

(いとつむぎ)

打ち綿からじんきをつくり、糸を紡ぐ道具

上手に紡がれた糸は高価で取引され、

老若男女を問わず、糸を紡いだ

2022/11/17



3-4B、綿花の加工

糸紡ぎ

糸紡ぎ

動画データ

5、糸紡ぎ

2022/11/17

3-5、綿花の加工

総上げ

(かせあげ)

紡いだ糸を加工しやすいように糸束にする

2022/11/17



3-6、綿花の加工

撚り止め
精錬

煮沸し撚りを止め、油分や汚れを落とす工程

2022/11/17



3-7A、綿花の加工

草木染め

植物を煮出して染め液を抽出し、灰汁(あく)等を用い媒染する

花梨(かりん)の葉

2022/11/17



3-7B、綿花の加工

草木染め のポイント 染まりやすさ

動物性繊維＝繭 シルク・生糸・絹

○ 羊 ウール・羊毛

植物性繊維＝亜麻(リネン)、苧麻(ラミー)

× 大麻(ヘンプ)

木綿(コットン)→前処理が必要
臭汁など

3-7C、綿花の加工



草木の焼却灰を水で溶き、上澄み液をとる
灰汁(あく)

2022/11/17

3-8、綿花の加工

草木染めを
施した糸

地元の山野で
採取した植物の
根、枝、葉、花から
色を抽出する



2022/11/17

3-9、綿花の加工

設計、計算

経糸(たていと)
緯糸(よこいと)

まず設計図に
合わせて経糸用の
糸枠を準備する



2022/11/17

3-10A、綿花の加工

整経

経糸(たていと)を
整える

設計図にしたがって、
糸枠から経糸をとり、
「あぜ」をとりながら
調えていく



2022/11/17

3-10B、綿花の加工

整経

経糸(たていと)を
整える

整経

動画データ
6、整経

2022/11/17

3-11、綿花の加工

綜紉(もじり)
(そうこう)
通し

すべての経糸を
1本ずつ、
もじりに通していく

今回の経糸は
728本



2022/11/17

3-12、綿花の加工

箄(おさ)
通し

すべての経糸を
1本(2本)ずつ、
箄に通していく

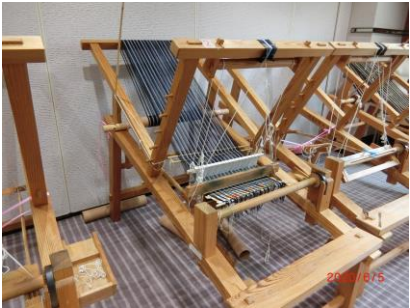


2022/11/17

3-13、綿花の加工

機掛け
(はたかけ)

いよいよ織機に
セットする



2022/11/17

3-14、綿花の加工

上糸と下糸

2枚綜純
杼(ひ)の
通り道

開口 (かいこう)
を確かめる



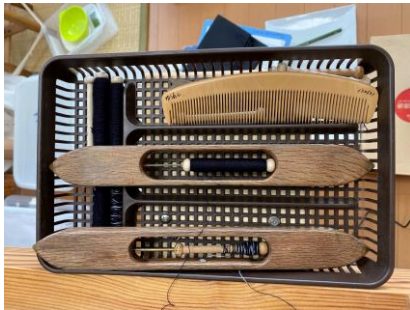
2022/11/17

3-15、綿花の加工

機織り
に用いる
杼(ひ)

シャトル

緯糸を通す道具



2022/11/17

3-16A、綿花の加工

機織り
(はたおり)

上糸と下糸の開口部に
杼を通し、
箄で打ち込んでいく



2022/11/17

3-16B、綿花の加工

機織り

機織り

動画データ
7. 機織り

2022/11/17

3-17、綿花の加工

機織り
(はたおり)

箆で打ち込みながら、
手前にある
千巻に少しずつ
巻いていく



2022/11/17

3-18、綿花の加工

織り上げ



2022/11/17

11:20

4, 栽培と加工

2022/11/17

4-1、栽培と加工

- 栽培作業 4月～10月
- 加工作業 10月～4月

春秋の彼岸(3、9月)が過ぎると、昼夜の長さが逆転

正月藪入り(小正月)から織り始め、五月秋が始まると止める

- 秋冬の夜長、農閑期の婦女子の仕事
糸紡ぎ、機織り



家族の衣料を
調べ、内職として
家計の足しに

2022/11/17

4-2、栽培と加工

- 大和では、正月のナラシモチは、

綿の豊作を願って作る習俗

大切な嫁入り道具 ➡ 嫁ぐ娘に手織りの反物を

2022/11/17

4-3、栽培と加工

☆『改訂天理市史(下)』より

機織りは暮しを支えるたいせつな女の仕事の一つであった。
家族の衣類、仕事着・アイ着・よそ行き着物などは、
女が暇をみつけては機で織り、着物に仕立てて
用を足してきたのである。

もちろん、布団をはじめ生活に必要な布類も
ほとんどが女が家で織った。(299頁)

- ヨメイリに、そうして織った着物が一枚でも多いと
- 働き者としてのでがらでもあった。(301頁)

2022/11/17

4-4、栽培と加工

☆奈良県山添村『豊原村史』より

一日に一反織るのが一人前とせられ、
若い娘は嫁入りまでに、是非
習得しなければならないものとされた。(中略)

家族の多い家では、この木綿織りの仕事も
相当婦女子にとっては苦勞であった。(377頁)

・

2022/11/17

4-5、栽培と加工

☆『大和がすり』(奈良県立民俗博物館)より

農村の女性は、十二、三歳の頃になると、
誰でも機織りを習い、
機織りの腕が一人前の条件でした。

機織りができなければ嫁にもやれん、
といわれました。(19頁)

2022/11/17

4-6、栽培と加工

父が、祖父が、家族が苦勞して育て、収穫した綿、
母が、祖母が、家族が苦勞して作ってくれた衣類を
大切に生かし、どこまでも生かし切る

Reduce(リデュース)、

Reuse(リユース)、

Recycle(リサイクル)



生活に根ざした
自然な営み

2022/11/17

4-7、栽培と加工

☆綿には捨てるところがない

種 → 綿実油、繊維、搾り滓は肥料(綿実かす、マコ)

枝 → 焚き付け材

繊維 → 糸や詰め綿

糸 → 衣類や布団、袋類に

衣類 → 裂き織り、おしめ
雑巾

雑巾 → わらじに

わらじ → 虫除け

虫除け → 灰となり肥料に

2022/11/17

4-8、栽培と加工

すべて、「いのち」あるものに

支えられ、育まれて、在る

ことへの感謝

生かす知恵、生かし切る知恵

(幼い頃から、自然と身につく)

11:30

5, H.A.M.A.木綿庵について (ゆうあん)

2022/11/17

5-1、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

こころはればれ、晴れ(Hare)の日も、
こころしとしと雨(Ame)の日も、
前(Mae)を向いて
歩き(Aruki)たい

生きづらさを抱えた人たちの「居場所」として

2022/11/17

5-2、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)

はま ・ ゆうあん

はまゆう ・ あん

浜木綿・庵

2022/11/17



5-3、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

支援活動を始めようと思い立ったきっかけ、

自分自身が苦しんだ経験から

2022/11/17

5-4、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

一歩を踏み出したきっかけ、

第三子のいのちを生かしたい

2022/11/17

5-5、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

なぜ、綿なのか？ なぜ、手作業にこだわるのか？

明日につながる、夢があるから

農福連携、生涯学習、文化継承、SDGs...

2022/11/17

5-6、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

これまでで一番苦労したこと、

夏の草刈り

→ いつか会えるかもしれない1人のために

2022/11/17

5-7、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

これまでで一番のエピソード、
(いろいろあって、難しいですが...)

一年目に会えたこと

半年後に畑へ、半年後に自分で、半年後に

2022/11/17

5-8、H.A.M.A.木綿庵(ゆうあん)について

現在の利用者は、

「ゆうあん畑」グループLINE登録者

17名 + 1名 おもに成人
(遠来の訪問者 新潟からも)

2022/11/17

11:50

5+, 活動を支える一ねん

* 大前提としての「喜び」に加えて

2022/11/17

5+-1、活動を支える一ねん

• お手許の資料をご覧ください。

• 本居宣長『初山踏』(寛政10年、1798)

「とてもかたくもつとめだにすれば、
出来るものと心得べし」

2022/11/17

5+-2、活動を支える一ねん

• 大蔵永常『綿圃要務』(天保4年、1833)

「できぬ事ハあるべからずと力を入、
踏込て始むべし」

2022/11/17

12:00

本日は、ありがとうございました。

このあとは、質疑応答、
および、アンケートのご記入に
ご協力をお願いいたします。

* 記入を終えられた方から順次ご退出ください。

2022/11/17